
International Symposium Report No.4

MEXT approved Joint Use / Research Center
International Center for Folk Culture Studies
The 4th International Symposium
Minzokugakus: Two Ways to Promote Multicultural Understanding

国際シンポジウム報告書Ⅳ

文部科学省認定 共同研究拠点 国際常民文化研究機構
第4回国際シンポジウム

二つのミンゾク学 —多文化共生のための人類文化研究—

発行日 2013年11月1日
編集 国際常民文化研究機構
発行 国際常民文化研究機構・神奈川県横浜市神奈川区六角橋3-27-1
〒221-8686 電話：045-481-5661(代) FAX：045-413-4151
URL <http://icfcs.kanagawa-u.ac.jp/>
印刷 株式会社精興社

国際常民文化研究機構のロゴ・マーク “文化を紡ぐ”



「糸車」は昭和10年代、アチックミュージアムで調査のお礼に渡していた手拭に染抜かれた民具図案の中から、日本常民文化研究所のロゴ・マーク「鋤」の生産具に対応させ、生活具から一点選びました。作図は当時の同人、藤木喜久磨によります。M・ガンジーは、機械文明の行く末を憂い、インドの農民が歩むべき道を糸車、チャルカで象徴させましたが、国際常民文化研究機構では広く「文化を紡ぐ」表徴とし、その意を豊橋技術科学大学で西洋古代史を講じ、ラテン語に造詣の深い相京邦宏先生に訳してもらいました。以下にその解説を記します。(佐野賢治)

英語の culture に当たるラテン語は cultura ですが、この言葉には「田畑を耕す」という原義がより強く含まれます。従って、この場合、cultusの方がより適切と思われます。この言葉は「人間の習慣」から「文化、教養」までより広範な意味を持ちます。或いは「文化」を人間の知識、知恵と読み替えるのなら、sapientia乃至scientiaの方が一般的かもしれません。両方ともsapio、scio「知る、理解する」の派生形です。

次に、「紡ぐ」のラテン語ですが、これを「文化の集積」と捉えるなら、accumulatio（積み重ねる、accumuloの派生形）が適切と思われます。従って、一般的にはaccumulatio cultus、或いは、accumulatio sapientiae乃至accumulatio scientiaeと表現するのが無難かもしれません。が、これでは単に「文化の集積、蓄積」という意味にしかありません。研究のシンボルが糸車ということですから、「文化を織りなす」という意味ではtexo（織る、編む、組み合わせる）という単語が考えられます。この場合textura（織ること、texoの派生形）culturaeとすれば「文化の織りなし」といった意味になるでしょうか（蛇足ですが微妙に韻を踏んでいます）。

これは文法的に可能な表現ということで、ラテン語に「文化を紡ぐ、編む」という概念が存在するかどうかは不明です。